

## 近距離の心技戦

去る7月に行われた卓球インカレ「第89回全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部」で、大会史上49年ぶりとなる男女アベック優勝を成し遂げたのが、愛知工業大学卓球部のメンバー達だ。現在、男子10名、女子8名の精鋭を率いるのが、男子主将の神京夏さんと女子主将の石田葵さん。男子は世界選手権の代表に選ばれる選手もおり伝統ある強豪チーム。決勝トーナメント4試合が全てストリート勝利と、並み居るライバル校を圧倒しての優勝。男子主将の神さんは語る。「試合に出場する選手、裏方に徹する選手共に、同じ意識で目標に向かい、まさに一丸となって勝ち取ったものだと思います」。一方、女子主将の石田さんには異なる視点があった。「女子は決して強いチームではありませんでした。5月に高校日本一のチームと試合をさせて頂いた際も不甲斐なく負けてしまい、そこから意識が変わりました。インカレまでの1カ月間に、どんな相手にも通用する武器を磨くトレーニングを徹底して行いました。試合でも接戦からの逆転勝利など、諦めない気持ちで勝ち上がりました」。状況は違えども、練習時に日本一の取り組みをしてきたからこそ、厳しい試合を勝ち抜けたのだ。神さんは5歳から、石田さんは小学2年生から卓球に打ち込み、中学・高校の卓球キャリアの中でも厳しさと、時に挫折の中で成長してきた。神さんは主将としての想いを話してくれた。「朝の食事から、朝練習、練習後のミーティングと、常に気持ちを一つにまとめていくことを意識してきました」。石田さんは「自分の達のやってきた取り組みを信じて戦うことを共有してきました」と言う。いずれも主将としての使命感を持ち、日本一という大きな目標に真正面からチャレンジした成果だ。「卓球は相手の表情や心理状態も感じ取りながら戦う緊張感あふれる競技です。その魅力を多くの皆様に感じてほしいです」。そう語る神さん。チーム一丸となって戦う姿勢は、これからも「近距離の心技戦」を制していく大きな武器となるだろう。

(写真・文／西山俊哉)

# 主将



石田 葵さん (女子主将)  
(経営学部経営学科4年)

神 京夏さん (男子主将)  
(経営学部経営学科4年)